

手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和4年3月11日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

『たったひとつのたからもの』3年“いのちの授業”

3月8日(火)、卒業を間近に控えた3年生のクラス毎に“いのちの授業”(道徳科)を実施しました。

『たったひとつのたからもの』(加藤浩美著 文藝春秋刊)という本を資料化し、主人公である加藤秋雪君の限られた命を精一杯に生きようとする姿とそれを支える家族の姿から、命の尊さを感じ取るという授業でした。このお話は、20年くらい前に小田和正さんの楽曲『言葉にできない』をBGMにして流れたCMで有名になり、ドラマ化もされました。まずは、秋雪君の写真とお母さんの言葉で綴られたCM映像を視聴しました。この映像だけで胸にグッと来るものがあります。その後、秋雪君の人生の足跡と、その時々のお母さんの想いをたどっていきました。秋雪君のお母さんが励まされた「人の幸せは、命の長さではないのです」という言葉から、「秋雪君にとっての6年間の人生」と「人の幸せ」について考えました。今を精一杯生きることや命の大切さ、家族の愛などを感じ取ることができたようです。生徒達は感想として、様々な自分の想いを書き綴ってくれました。深い考えもたくさんありました。そのいくつかを掲載します。



■ この授業を受けなければ、秋雪君のことも知らなかったし、人の幸せはどんなことかということも考えなかったと思う。私は最初のCM映像を見て、少ししか生きられなかったんだ、かわいそうだなと思って、涙が出ました。しかし、授業を進めていく中で、秋雪君は、お父さん、お母さん、いずみの学園の先生などから支えられて、愛されて一日一日を大切に懸命に生きたと知りました。最後にもう一度CM映像を見たときは、かわいそうとは思いませんでした。秋雪君は、幼くても一生懸命生きたのだと感心というか素直にすごいと思いました。

■ 一番大切なのは、今を必死になって生きること。そうして、精一杯生きて手に入れたものを「幸せ」と呼ぶのだと感じた。それが人々には財産であり、家族であるように、秋雪君にとっては、“家族と生きる時間”だったのではないだろうか。今、一分一秒と向き合うことを大切にしたい。

■ 普段は一日一日を大切に過ごすなんて考えていませんでしたが、生きるだけでも精一杯な人がいると分かり、考えさせられました。日々を生きる幸せをかみしめている人に対して、何気なく僕は生きていたので、これからは「今」を感じて生きていきたいです。なかなか人生を考える機会は少ないので、今回の授業はより深いものになりました。

■ 今回の授業を通して、命とは何なのか、生きていることがどんなに素晴らしいことなのか改めて分かった気がします。僕は生まれる前に、もう一人子どもを授かっていたと母から聞いたことがありました。聞いた時はまだ小さかったので、それがどうしたって感じていたが、歳を重ねていく中で、もしその人が生まれていたらと思うと、心苦しくなります。それは、きっと両親も同じ気持ちだと思います。この世に誕生させることができなかった悲しみや悔しさがあったと思います。僕は〇〇家の中の長男であり、二人目でもあります。生まれることができなかった一人目のきょうだいのためにも、精一杯生きていきたいと思います。

■ 会ったことはありませんが、私には兄がいました。兄は生まれつき心臓が弱く、生後3ヶ月で亡くなってしまいました。この授業を通して、両親の気持ちについて考えました。辛くて悲しいときもあったと思います。でも兄が母のお腹の中にいた時間、兄が生まれてきて初めて兄と会った瞬間、たった3ヶ月でも兄と過ごした時間はとても幸せで大切なたからものだと思います。今日は、命の大切さ、人間の幸せについて改めて考えることができました。本当にありがとうございました。

■ 改めて命は大切だと思った。今日だって生きていたいけど、生きられない人がたくさんいる。その人たちの気持ちを考え、今日、そして、これから元気に過ごしたいと思う。最後に、私のことを産んでくれた母に感謝しかないです!!



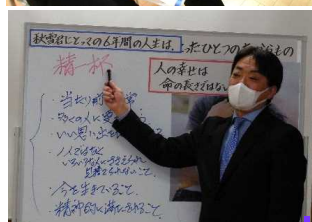
■ 今日の授業で私が知ったのは、秋雪君の人生のほんの一部にすぎないと思います。秋雪君自身も、ご家族も辛い夜はあったと思います。でも、精一杯生きて、ちょっとずつ成長していった姿に、お母さんもすごく感動したんだろうなと感じました。「子は親を選べない」というけれど、産んでくれた親と生きていくことがその人の運命であり、幸せを感じながら生きることは、奇跡なんだなと思いました。

■ この道徳の時間を通して、生きることの大切さ、命の尊さを学びました。秋雪君がハンデをもっていながらも懸命に生きる姿に心打たれました。世の中で軽く「死にたい」とか「死ね」と言っている人にみてほしいと思いました。これからは日常を大切に生きていこうと思います。

■ 秋雪君の人生は、たくさんの『努力』のかたまりだだと思います。本人の努力はもちろん、家族や学園の先生方など、たくさんの人の努力と精一杯が集まった秋雪君の人生だと思いました。秋雪君は精一杯、自分の人生を歩んだのだと思います。生きていることは当たり前、友達に会って、温かいご飯を食べて、そんな日常を当たり前と思っていた自分がばかみたいに思えました。一つ良いことがあったら、また一つ、二つ…と次々に幸せを求めすぎていました。そんな私にできることは、秋雪君のような人が少しでも楽しく、幸せだ、と思えるようにサポートすることだと思いました。その人の「精一杯」を応援し、そして私も「精一杯」自分の人生を歩みたいです。「かわいそう」という考え方を捨て、「精一杯」頑張ってる人を応援できる人になりたいです。

■ 僕は、今生きていることが当たり前、そう思っていた。秋雪君のCM映像を見て、その考えが一変した。彼が起こした奇跡は僕の心を動かした。一日を過ごし、就寝して次の日の朝に目覚めることがどれだけ貴重なのか、痛いほどわかった。もし自分が秋雪君で余命1年と宣告されたらどう思うのか、僕だったらきっと絶望するだろう。しかし、秋雪君は、絶望ではなく家族に希望をもたらした。「この子は強い」そう思った。命の尊さ、あらがえない病気への恐怖、周りからの愛情、日々の大切さなど、大切なことを学べたので、本当によかった。

■ 今回の授業を通して学んだことは、「命の尊さ」と「幸せ」だと思う。この二つの言葉は、日常でもいろんな場面で耳にし、ありふれた言葉の一つだと思っていた。ひどく言えば「聞き慣れた」と言ってしまうくらいの言葉である。そして、私は校長先生の授業を受けた。私は、人生を不自由に生きる人達はすべからくして「幸せ」を得ることが困難だと思っていた。理由は単純で、社会的地位がかなり低いからだ。そこで、私が気づいたことは、「視点が異なる」ということだ。私は、人生における利便性や安定性だけを見て判断していたが、人によって得られる幸福は異なるということだ。不自由な人は多くの人に支えてもらい、愛してもらいながら、幸せに生きることができるとに加え、大前提として人によって価値観が異なるということ、そして、その人なりの幸せがあるということ学んだ。これからは、私自身の「幸せ」を大事にしながら、私以外の人の「幸せ」の歯車になれるよう生きていきたい。



ご家庭からのメッセージ

今回の授業では、授業で学習したことを、おうちの人に伝えるという『道徳の宿題』なるものを実施しました。（強制ではありません）生徒の話を聞いた保護者の方々から温かいメッセージが届きました。お忙しい中、ご協力、本当にありがとうございました。



◆ ○○が産まれた時の事、今でも鮮明に覚えています。嬉しくて涙がとまりませんでした。宝物ができてうれしかったです。これからの人生、いろいろあると思いますが、一人で悩まず、お父さんとお母さんはいつでもサポートするし、相談にのるから、目標に向かって頑張れ!!一日一日を大切に、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに過ごしてほしいです。

◆ 秋雪君は一年しか生きられないかもしれないと聞かされた時のご両親の気持ちは、とても切なく苦しかったと思います。我が子が誕生した時の喜びや、大切に守っていかうと子供と共に成長することを決意したことを思い出しました。秋雪君のご両親は愛おしい表情をしていましたね。親が子供を殺してしまったり、虐待など多くのニュースを耳にしますが、同じ事を自分自身にできるか…命の大切さと責任を感じてほしいです。

◆ この世に産まれることができなかった命があります。病院の先生は「何の問題もなくポンポン出産できる人は、ほんのひと握りです」と言いました。新しい命!○○○に会うことが出来ました。誰もが誰かの宝物なんだと思うと、命は大切ですね。いつか命の誕生を味わって、大切な大切な命に出会えると良いね。

◆ 今回の授業で学習したことを簡単ではありますが、説明してくれました。正直、自分自身子どもと同じくらいの歳の頃には、「命」＝「大切なもの」という漠然としたものでしかとらえておらず、深く考えたこともありませんでした。成長し、結婚をして、子どもができて、子どもの成長を身近で見えていくうちに、初めて本当の命の大切さ、重みというのを実感できたように感じます。子どもが話を聞いて泣きそうになったと言っていました。自分と違い、しっかりと命の重み、大切さを感じてくれているのだと思いました。私自身も先生方同様に子どもたちに教える立場ですから、このように感じてくれる子どもを一人でも多く育てていかなければとも思いました。今回の授業を通して父子共にいろいろ考えさせられるよいきっかけになったと思います。ありがとうございました。